



# クローバー動物病院

だより 第23号



今回は、うさぎ③についてです。

## うさぎ③

今回は、うさぎの病気についてです。うさぎも皮膚病、眼病、呼吸器病、心臓病、消化器病、泌尿器病、腫瘍など、たくさんの病気にかかります。ここでは、当院において患者さんが来院する原因になっている代表的な病気を紹介します。

### 消化器疾患

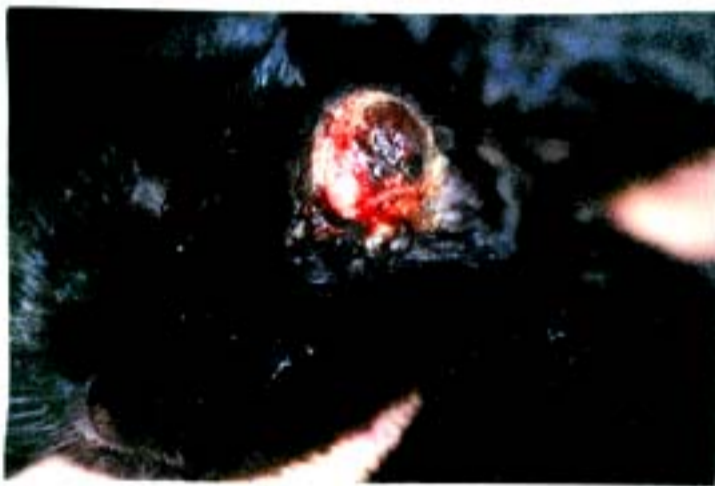
ウサギは**完全な草食動物**で、結腸分離機能による**食糞**という特殊な機能を持ちます。そのため**消化管は長く、容積も大きい**です。消化器疾患は特に**幼若個体に急性に好発**します。**デンプン質の過剰摂取、食物繊維の不足**などの栄養素の不均衡、**ストレス**などの誘因も大きく関与し、**胃腸運動を抑制**することが大きな原因となります。**腸内細菌叢（ちょうないさいきんそう）**の不均衡も消化器疾患の直接的な引き金になります。

なおウサギは**頑固で嗜好性に偏る動物**で、幼若期から同一の食餌内容で飼育されると、その他のものは一貫して**口にしない**場合があります。また、怯えがちな個体、消化器が弱い個体は環境や食餌内容の変化といった要因により、**下痢や軟便**を呈します。そして最近では**不正咬合が多発**しており、給餌されている**ペレット、スナック**などに**問題があると推測**されています。

# こんせん ＜根尖膿瘍＞

ウサギの場合、不正咬合が原因で  
歯の根元が伸び、顎の骨まで出  
てしまうことがあります。

細菌が感染すると、眼下や下顎に  
膿がたまってしまいます。この状態にな  
ると、完治は困難なことが多いです。



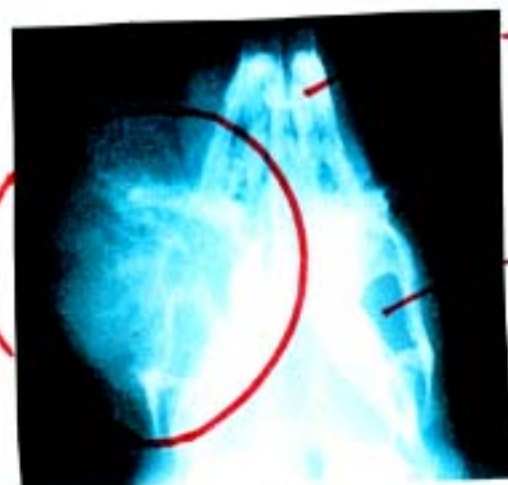
▲根尖病巣により眼球が壊死したウサギ



▲下顎に膿瘍が  
みられるウサギ  
(膿瘍 = 膿が  
たまって  
しまったもの)



▲上顎に膿瘍がみられるウサギ



＜レントゲン写真＞

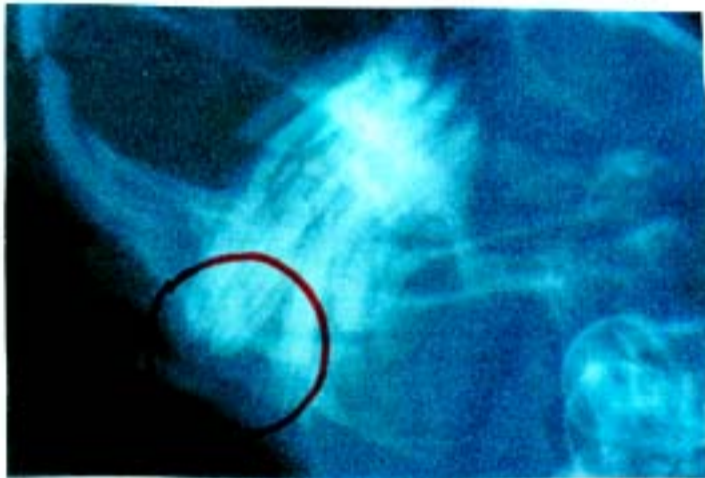
▲上顎の骨が吸収され、不鮮明になつてます。

# < 臼歯の不正咬合 >



▲ 上顎の臼歯 (食べ物もすりつぶす歯) が  
頬側に伸びている。

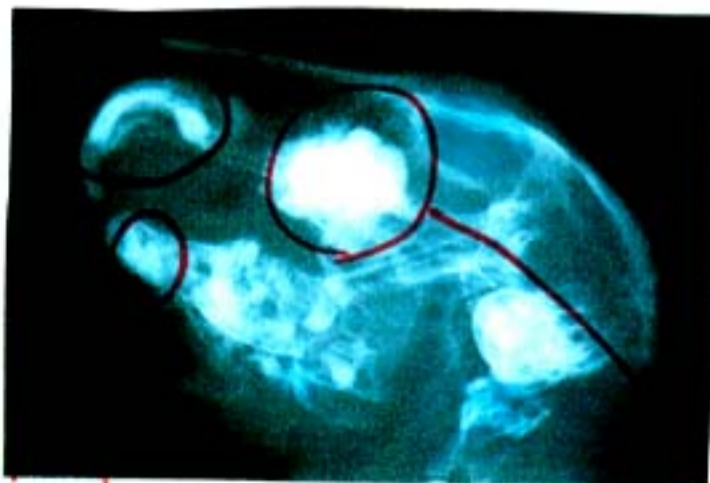
# < レントゲン写真 >



▲ 下顎の臼歯の根元が伸びて  
下顎の骨縁が不鮮明になっている。



▲ 下顎の臼歯の根元が伸びている。



▲ 上顎の切歯は根元が伸び、  
石灰化がおきている。  
下顎切歯は吸収された(おきている)。  
上顎の臼歯も根元に石灰化が  
おきている。



▲ 下顎臼歯と下顎骨の  
骨吸収がおきている。

# < 正常なウサギの頭部レントゲン写真 >



# < 切歯の不正咬合 >



▲ 斜めにあり激った切歯

# レントゲン写真



▲ 切歯の不正咬合のため、弯曲したウサギ



上顎切歯が大きく弯曲  
 下顎の切歯も前方へ伸びている  
 臼歯部分もおおへ伸びている

## 1 歯の異常（不正咬合）

ウサギの歯は常生歯といって、イヌ・ネコと異なり、生涯、歯を形成し伸び続けます。通常は自ら食餌で歯をすり減らしたり、歯のかみ合わせにより、長さを調節していますが、先天的、後天的に、歯の位置異常を起こすことがあります。

原因：先天的…遺伝的なものと考えられています。

後天的…事故による歯の破損、やわらかい食餌（パン、ごはん、ペレット、ウサギ用おやつ）などによる、歯をすり減らす回数の減少が考えられます。

症状：切歯も臼歯も歯が伸びて曲がったり、ねじれたりして、正常なかみ合わせができなくなります。一般症状は食欲不振、よだれ、体重減少、下痢など。頬粘膜や舌を傷つけて潰瘍を起こすこともあります。

※臼歯が不正咬合の場合…下あごの臼歯は感染が生じると、歯の根元に膿（ウミ）がたまり、骨髄炎を起こし、歯が脱落することがあります。上あごの臼歯は症状が悪化すると、流涙、目やに、眼球突出、眼球壊死など、目に問題が起こります。

※切歯が不正咬合の場合…上あごの切歯は内側に向かって大きく曲がり、下あごの切歯は緩やかにカーブを描いて前方に伸びます。したがって、グルーミングができなくなり、毛の状態が悪化します。

治療：過剰に伸びた歯は切ったり、削ったりしなければなりません。高さの調節、そして舌や頬粘膜に鋭く伸びた臼歯は整形が必要です。特に臼歯の処置には、全身麻酔が必要となります。もちろん二次的に発生した症状、目の問題や歯の根元に病巣を併発している子は原因歯の抜歯を行ってから、それぞれの治療を行う必要性があります。予防は、食餌で歯をすり減らすような乾草、牧草等を多く与えることです。